アンヌギー、レノーセック兩氏學説ノ價値

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐口, 榮 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37928

胎兒ノ連續切片ヲ鏡檢シテ擧ゲ得タル成績ハ次ノ如シ

記述ノ簡ト了解ノ便トヲ慮リテ模型圖ニ就テ說明セン

標本第一ノ胎兒ハ體長〇・五四糎ニ於テハ第一動脈弓ハ完成シ第二動脈弓ハ發生ノ途上ニアリ、標本第四ニ於テハ第三動脈弓迄完成セハ標本第七ニ於テハ第一動脈弓ハ中央ニテ斷絕シ、第五、第六動脈ハ相合シテ動脈幹ノ方ニ向ヘ尼未ダ之ト合一セズ、標本第八及第九ニ於テ第六動脈弓ハ背側頸動脈ニ近キ部ニ於テ島嶼ヲ形成セリ、第五動脈弓ノ秘義蓋シコノ中ニ存在スベシ、標本十一ニ於テハ第二動脈弓ハ中斷シ、第一動脈弓ハ腹側部ガ殘留スルノミ、以後第二動脈弓ノ背側部ハ分枝シテ眼球及頸部ヲ養フニ至ル、標本十四ニ於テ外頸動脈ガ第二及第三動脈弓ノ中間ニ生ズ、肺動脈幹ハ大動脈幹トハ別ニ心臟ヨリ出ヅ、標本十六ニ於テハ第二動脈弓ハ Columella-blasten ヲ貫通ス、茲ヲ以テ以後第二動脈弓ノ殘存部ヲ Art. Columellaris ト呼ブベシ、蓋シコノ動脈ハ哺乳類ニ於ケル Art. stapedia ト一致スルナリ、爾後聽桿(コルメラーリス)動脈ハ R. supraorbitalis, R. infraorbitalis et R. mandibularis ニ分レ眼球及頸部ニ血液ヲ搬ブ、外頸動脈ハ益々發達シテ腹側頸動脈ノ供給域ヲ奪ヒ、從ツテ腹側頸動脈ハ細クナリ遂ニ第三動脈弓ヨリ離レ却テ外頸動脈ノ枝ノ觀ヲ呈ス要之、胎生時ノ第二動脈弓ハ其背側半部ダケ殘リ之ハ聽桿動脈トナリテ眼球及頸部ノ動脈ノ幹トナル、第三動脈弓及第四動脈弓(右)ハ夫々頸動脈弓及大動脈弓トシテ殘リ、第六動脈弓ハ肺動脈トナル、爾余ノ部分ハ成育獸ニ於テハ消滅シテナシ。

アンヌギー、レノーセック兩氏學說ノ價値

會員　佐口榮君

一八九八年アンヌギー及レノーセック兩氏ハ相前後シテ顫毛細胞ノ基礎小体ハ中心小体ヨリ由來シ恰モ中心小体ガ精糸ノ運動性中心タルガ如ク中心小体ヨリ轉來セル基礎小体ハ顫毛ノ運動性中心タリトノ說ヲ樹テ爾來之レヲアンヌギー、レノーセック兩氏ノ學說ト稱シ學者爭論ノ問題トナレリ

演者ハ次ノ三問題ガ此學說ノ價値ヲ決定スルニ必用ナリ

トシ其研究ノ結果ヲ次ノ如ク結論セリ

一、中心小体存否ノ問題ニ關シテハ

a. 中心小体ハ脊椎及無脊椎動物ノ顫毛細胞何レニモ來リ得

b. 中心小体ハ通常重複小体ノ形ニ於テ胞核ト表面トノ間ニ於テ種々ノ位置ニ來ル而シテ細胞表面ノ直下ニ來ル場合ハ哺乳動物ノ睾丸輸出管ノ顫毛細胞ニ於ケルノミ

二、核分体存否ノ問題

a. 顫毛細胞ノ間接核分体ニヨリテノ増殖ハ只無脊椎動物ニ於テ來ル

b. 脊椎動物ノ顫毛細胞ハ中心小体ノ有スレドモ間接分体ヲ以テ増殖セズ

c. 之レニ反シ直接核分体ニヨリテノ顫毛細胞ノ増殖ハ演者ノ見タル範圍ニ於テハ脊椎動物ニノミ來ル

d. 直接核分体ノ際ニハ胞核及其他ノ細胞内ノ構造ニハ些ノ變化ナシ

e. 中心小体ハ直接核分体ト全ク無關係ナラザル如シ

三、顫毛裝置ノ發生

a. 顫毛裝置ハ其胎生時ナルト已ニ成長セル動物ニ於テ行ハルヽトニ關ハラズ常ニ「ミトコンドリヤ」ノ分化ニヨリテ發生ス

b. 中心小体ハ顫毛ノ發生ニ關與セズ

四、演者ハ上記ノ所見ニヨリテアンヌギー、レノーセック兩氏學説ニ反對セル論據ヲ得タリト信ズ即チ

a. 中心小体ハ脊椎及無脊椎動物共ニ顫毛細胞ニ於テ存ス

b. 併シ中心小体ノ存在ノ故ヲ以テ顫毛細胞ハ常ニ間接核分体ヲナサザル可カラズトノ説ニハ賛セズ何トナレバ脊椎動物ノ顫毛細胞ハ中心小体ヲ有スルニモ係ラズ間接核分体ニテ増殖セズ

c. 顫毛（恐ラク其他ノ顫毛裝置モ）ハ「ミトコンドリヤ」ノ分化ニヨリ生ジ中心小体ヨリ發生セズ　（自抄）

小皮緣學説ト小桿体學説

會員　佐口　榮君

演者ハ小皮緣學説ト小桿体學説トノ疑義ニ關シテ一定ノ